平成24年度

大好き いばらき

ふるさと自慢

いばらきの魅力再発見

歴史、文化、産業、食…
魅力あふれる『いばらき』。
知られざる郷土の魅力
「ふるさと自慢」を探そうと、
ネットワーカー（県民運動地域推進員）
からの情報を頼りに、
県内各地を訪ねました。
選りすぐりのふるさと自慢が
詰まったこの本を通して、
ぜひ、『いばらき』の良いところを
再発見してください！





大好き いばらき 県民会議

共に創ろう 愛されるいばらき



大好き いばらき 県民会議は、共生・共創・共援の3つの理念のもと、福祉社会づくり、生活環境づくり、人づくり、茨城の風土づくりの4つを運動の柱に、幅広い県民運動の推進に取り組んでおります。

各地域で行われているさまざまな活動の応援役・推進役として、多くの県民の皆様とともに、「生まれてよかった」「住んでよかった」と実感できる茨城づくり、やさしさとふれあいのある茨城づくりを目指しております。

さて、本県には、常陸国風土記に遡る古い歴史や文化、豊富な海の幸や山の幸、つくばの最先端技術のほか、私達の身近なところにも数多くの魅力があります。

本冊子は、大好き いばらき 県民運動を各地で展開しているネットワーカー（県民運動地域推進員）が、「是非、沢山の人たちに知ってもらいたい」との思いで選んだ郷土の魅力「ふるさと自慢」について紹介する内容となっています。

中には、一般にはあまり知られていないようなものもありますので、楽しく読んでいただけると思います。

本書を通じて、多くの皆様にいばらきの素晴らしさについて、再認識していただき、いばらきをより一層好きになっていただきたいと思います。

最後に、ネットワーカーをはじめ、本書の作成にあたりご協力をいただきました皆様に深く感謝申し上げます。

大好き いばらき 県民会議
理事長　幡谷 浩史



笠間稲荷神社（笠間市）

大好き いばらき 県民会議とは？

平成7年9月設立　みんなで力を合わせ、誰もが大好きといえるいばらきをつくっていく運動が県民運動。
この運動を推進するために
「大好き いばらき 県民会議」は設立されました。

県北

大好きおおたネットワーク［P8］
大好きひたちネットワーク［P9］
大好き北茨城ネットワーカー協議会
常陸大宮市ネットワーカー協議会
大子町ネットワーカー協議会

県央

那珂市ネットワーカー連絡協議会［P10、11］
ひたちなか市ネットワーカー連絡協議会［P12、13］
水戸市ネットワーカー連絡協議会［P14、15、16］
大好きかさまネットワーカー連絡協議会［P17、18］
茨城町ネットワーカー等連絡協議会［P19］
小美玉ネット
大好きいばらき東海村地域推進会議

鹿行

ネットワーカーかしま
潮来市ネットワーカー連絡協議会
ネットワーカーかみす
鉾田市ネットワーカー等連絡協議会

ネットワーカーの交流と情報交換の場であるネットワーカー等連絡協議会は、現在、39 の市町村に 41 団体が設立されています。今回、「ふるさと自慢」を紹介してくれた団体は、協議会名の横に本文の掲載ページが記載されています。

理念

共生 いばらき

やさしさとふれあいのある茨城づくりをめざします。

共創 いばらき

新しい茨城のイメージを県内外に伝え、広めます。

共援 いばらき

互いの活動を理解し認め合って、県民運動を推進します。

運動の柱

福祉社会づくり

誰もが健やかに暮らせるやすらぎに満ちたいばらきづくりを進める運動です。

- 子育て支援イベントの実施等

生活環境づくり

豊かさを実感できる安全安心で快適な生活環境づくりを進める運動です。

- 花と緑の環境美化コンクール
- ひぬま流域クリーン作戦 等

人づくり

個性と創造性に富む心豊かな人づくりに貢献する運動です。

- 大好き いばらき 作文コンクール
- いばらき教育の日

茨城の風土づくり

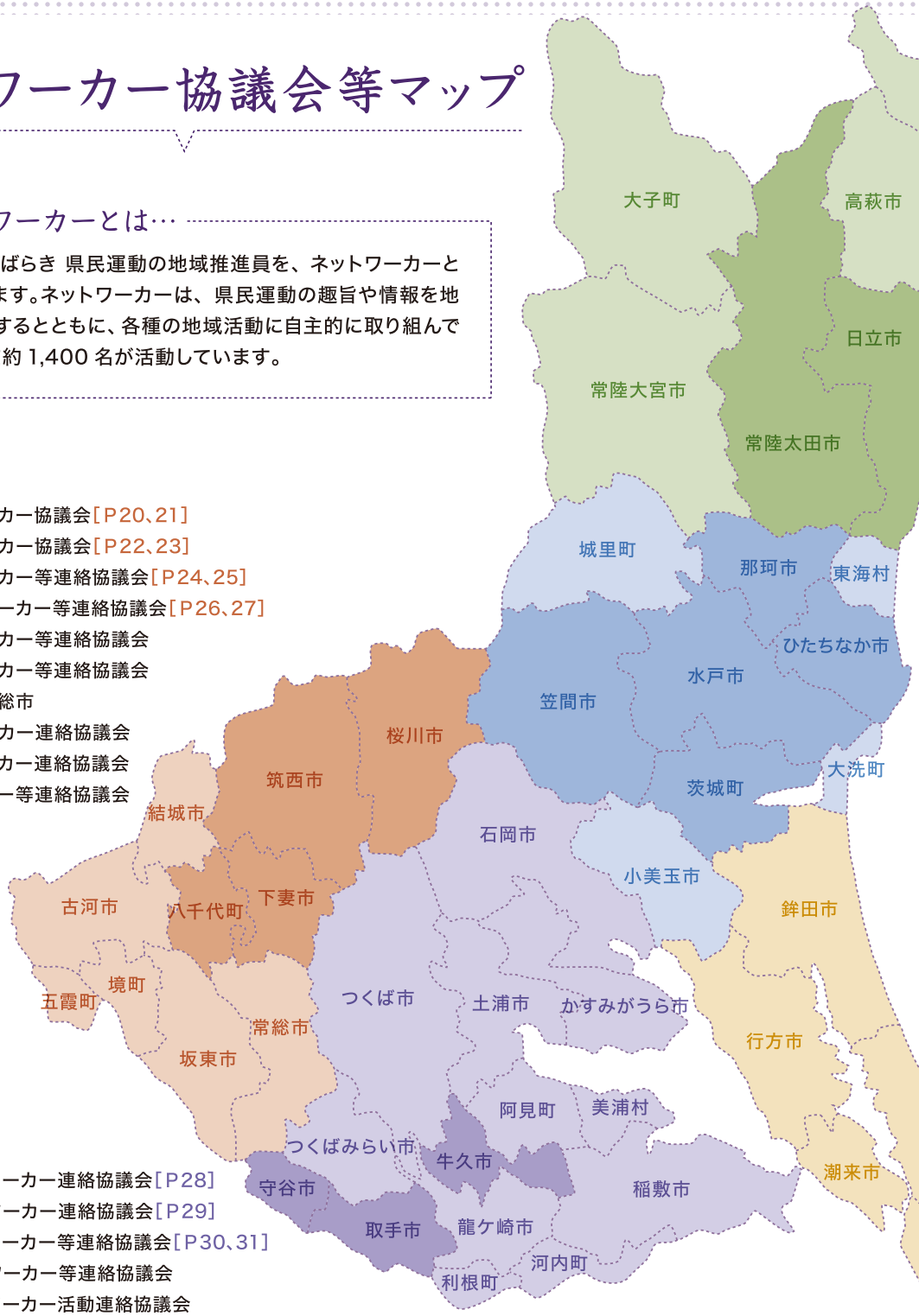
過去、現在、未来をつなぐ新しい茨城の風土づくりを進める運動です。

- 大好き いばらき ふれあいまつり
- あいさつ・声かけ運動の実施 等
- ネットワーカーによる県民運動の推進

ネットワーカー協議会等マップ

ネットワーカーとは…

大好き いばらき 県民運動の地域推進員を、ネットワーカーと呼んでいます。ネットワーカーは、県民運動の趣旨や情報を地域に発信するとともに、各種の地域活動に自主的に取り組んでおり、現在約 1,400 名が活動しています。



県西

桜川市ネットワーカー協議会［P20、21］
筑西市ネットワーカー協議会［P22、23］
下妻市ネットワーカー等連絡協議会［P24、25］
八千代町ネットワーカー等連絡協議会［P26、27］
古河市ネットワーカー等連絡協議会
結城市ネットワーカー等連絡協議会
ネットワーカー常総市
坂東市ネットワーカー連絡協議会
五霞町ネットワーカー連絡協議会
境町ネットワーカー等連絡協議会

県南

牛久市ネットワーカー連絡協議会［P28］
守谷市ネットワーカー連絡協議会［P29］
取手市ネットワーカー等連絡協議会［P30、31］
土浦市ネットワーカー等連絡協議会
石岡市ネットワーカー活動連絡協議会
ネットワークドラゴンズ
茎崎ネットワーカーの会
新利根町ネットワーカー等連絡協議会
霞ヶ浦地区ネットワーカー等連絡協議会
かすみがうら市千代田地区ネットワーカー等連絡協議会
つくばみらい市ネットワーカー等連絡協議会
やわらネットワーカー連絡協議会
大好き美浦村ネットワーカー協議会
阿見町ネットワーカー協議会
利根町ネットワーカー協議会

目次

2		理事長あいさつ	
4		大好き いばらき 県民会議の紹介	
5		ネットワーカー協議会等マップ	
県北			
8	常陸太田市	里美地区の睡蓮の咲く池「根岸のため池」	大好きおおたネットワーク
9	日立市	十王中学校の生徒がつなぐ新しい郷土芸能「十王鵜鳥舞」	大好きひたちネットワーク
県央			
10	那珂市	瓜連地区の伝統を守る「うりづらおはやし保存会」	那珂市ネットワーカー連絡協議会
11		女性のパワーで地域を元気に！「那珂つるしびなの会」	
12	ひたちなか市	現在のひたちなか海浜鉄道湊線の創設者「大谷新介氏」	ひたちなか市ネットワーカー連絡協議会
13		華やかな風流物が練り歩く「天満宮御祭礼」～みなと八朔まつり～	
14	水戸市	古代ロマンに想いを馳せて「堀原火の国まつり」	水戸市ネットワーカー連絡協議会
15		史跡を生かして整備した地域のオアシス「水戸市大串貝塚ふれあい公園」	
16		皆で縄文人に変身 !?「風土記の丘ふるさとまつり」～ダイダラボウまつり～	
17	笠間市	天狗に向かってばかやろう！愛宕神社の奇祭「悪態まつり」	大好きかさまネットワーカー連絡協議会
18		いばらきが誇るご当地グルメ「笠間のいなり寿司」	
19	茨城町	町一丸となって守る涸沼の自然「茨城町涸沼環境フェスティバル」	茨城町ネットワーカー等連絡協議会
県西			
20	桜川市	地元住民が守る「御嶽山・雨引山ハイキングコース」	桜川市ネットワーカー協議会
21		筑波山西麓「北限のみかん狩り」	
22	筑西市	「小栗判官伝説発祥の地」	筑西市ネットワーカー協議会
23		「筑西市のおいしい農産物」	
24	下妻市	大宝八幡宮の火祭り「タバンカ祭り」	下妻市ネットワーカー等連絡協議会
25		下妻市のご当地スイーツ「ポピー大福」	
26	八千代町	自慢の天然温泉施設「憩遊館 やちよ乃湯」	八千代町ネットワーカー等連絡協議会
27		白菜生産量日本一「八千代町の白菜キムチ鍋」	
県南			
28	牛久市	「うしく三大まつりへいらっしゃい !!」	牛久市ネットワーカー連絡協議会
29	守谷市	高齢者が集う地域のサロン「水曜日だぜ～ 全員集合！」	守谷市ネットワーカー連絡協議会
30	取手市	水戸街道を行き来した大名の宿泊所「旧取手宿本陣染野家住宅」	取手市ネットワーカー等連絡協議会
31		取手の飛び地をつなぐ渡し船「小堀の渡し」	

筑波嶺の 峰より落つる 男女川
恋ぞつもりて 淵となりぬる

いばらきに恋する
ネットワーカー
たちが、文化、歴史、
産業、食などさまざまな
観点でふるさとをご紹介いたします！

大好き いばらき
ふるさと自慢
いばらきの魅力再発見

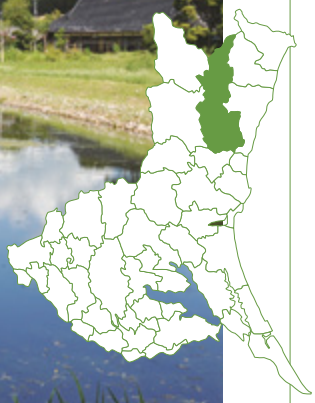


久慈川（大子町）



おすすめスポット

里美地区の睡蓮の咲く池「根岸のため池」



大好きおおたネットワーク

四季折々の美しい風景

常陸太田市立里美中学校の北側に、四季折々の風景が楽しめる「根岸のため池」があります。

澄んだ池の中には、メダカやフナが泳ぐ姿が見られます。また、ガクアジサイ、ハナショウブ等の草花が咲き誇り、一番の見頃である6～7月には、睡蓮のピンクと白の彩りが鮮やかに添えられます。各地域からカメラを片手に、ベストショットを狙って様々な方が訪れます。



ため池再生への道



今でこそ美しく整えられたため池ですが、ここに至るまでには長い道のりがありました。その歴史は古く、江戸時代の初め頃に作られたといわれています。長年、農業用のため池として使われてきましたが、昭和40年代に葦の大量繁殖により、湿地帯へと変わってしまいました。

そんなため池を再生させようと、平成12年の秋に里美地区内外から延べ900人のボランティアが集まり、5回の小石積み等の作業を行い、きれいなため池が復元されました。

平成23年度からは、常陸太田市の市民提案型まちづくり事業により、ため池周辺の休耕田を借り受け、アヤメ等の植栽をし、更なる環境整備を図りました。

里美地区活性化のために

里美地区の活性化に熱意を注ぐ、美しい里づくり委員会の小林会長は、「何かやろうと声をかけると、何人も集まってくれる。そこが里美のいい所です。」と教えてくれました。

平成24年には、ため池周辺を会場に、初めて夏祭りを開催しました。

今後は、アヤメが咲く7月頃に、ホタルを放つイベントを企画したいとのことでした。

大好きおおたネットワークの中村会長は、「何人もの会員が、良い所があると、ここを教えてくれたので、ふるさと自慢に紹介しました。でも、まさかここまで素敵な所だと思いませんでした。今度は孫とお弁当を持って遊びに来ます。ホタル事業では、ぜひ声をかけてください。」と意欲的です。

同会員の瀬谷さんは、「ここでは、地域の人が協力して自然を守るという当たり前のことが出来ていて素晴らしいです。」と話します。

■ ふるさと自慢の推薦者
大好きおおたネットワーク
会長　中村二三子

■「根岸のため池」
所在地：常陸太田市大中町 276 - 5



伝統・文化

十王中学校の生徒がつなぐ新しい郷土芸能

「十王鵜鳥舞（じゅうおううねどりまい）」



大好きひたちネットワーク

旧十王町の新しい郷土芸能

「十王鵜鳥舞」は、旧十王町が日立市と合併した翌年の平成17年に、日立市立十王中学校の先生・生徒たちと、東京の民族歌舞団「荒馬座」が、協力して作り上げた創作芸能です。

合併後も旧十王町の伝統を引き継ごうとの思いから、日本唯一の海鵜捕獲地であるという地域の特色を生かして、衣装、小道具、お囃子、踊りを工夫しました。

男子生徒は「鵜捕り」、女子生徒は「海鵜」の舞を踊ります。

「鵜捕り」の舞は、鵜の足にカギ棒を引っかけて鵜を捕まえようとする様子を、「海鵜」の舞は、鵜が海上を羽ばたいている様子とカギ棒をよける様子を表現しています。

さらに、「十王」の舞は、八幡太郎義家が、太刀を執って巨石を真二つに割ったという堅破山（たつわれやま）の太刀割石（たちわりいし）の伝説を、十人の王の舞で表現しています。

また、太鼓・篠笛・唄のお囃子も、生徒たち自身で担当します。

日本唯一の海鵜捕獲地

十王町にある伊師浜海岸は、全国の鵜飼地に海鵜を供給している唯一の場所です。

十王鵜鳥舞のモチーフである海鵜の捕獲は、4～6月と10～12月の年2回行われています。

伊師浜海岸の断崖が、春と秋に渡ってくる海鵜の休憩所となり、全国の鵜匠からの注文を受けて、毎年40羽ほど捕獲しています。

おとりの鳥に誘われ、鳥屋（とや）の前に舞い降りた鵜の足首を、カギ棒で引き寄せ捕獲します。

伊師浜国民休養地内には、「鵜のパラダイス」があり、海鵜を身近に見ることが出来ます。



2年生から1年生へ

舞を踊るのは、2年生と決まっており、毎年、2年生から1年生へと引き継ぎます。

取材の日、生徒たちは、それぞれの部活動に分かれ、先輩から後輩に振り付けを教えていました。

先輩の熱心な指導に応えるかのように、1年生はあっという間に振りを覚えてしまいました。

生徒の1人は、「夏休み中の暑い中で練習をするのは大変でしたが、鵜鳥舞のこの振りが好きです。」と、お気に入りの振りを踊って見せてくれました。

教頭の中野先生は、「十王鵜鳥舞の一番のねらいは、郷土を愛する心を育むことです。生徒たちは、自分たちの町は、こんなにいい所なんだという思いを込めて踊っています。」と話します。

生徒たちの練習の成果は、中学校の体育祭、十王地区運動会、日立シビックセンターで行われるひたち秋祭り等で披露されます。

■ ふるさと自慢の推薦者
大好きひたちネットワーク
代表　柴田親昌

伝統・文化

瓜連地区の伝統を守る

「うりづらおはやし保存会」





那珂市ネットワーカー連絡協議会

「うりづらおはやし保存会」



うりづらおはやし保存会は、那珂市瓜連にある素鷲（そが）神社のお囃子の伝統を引き継ぎ、後世に残していくことを目的として、今から約30年前に結成されました。保存会は、毎週水曜日の「総合センターらぽーる」での練習のほか、那珂市立瓜連小学校のクラブ活動での「太鼓教室」や、介護老人ホームでの慰問活動等を通じて、地域の世代間交流の場ともなっています。

さらに、毎年4月に静峰ふるさと公園で開催される「八重桜まつり」や、「なかひまわりフェスティバル」等の様々なイベントにも出演し、瓜連のお囃子の普及に取り組んでいます。

伝統を継承することの難しさ



これまでの保存会の活動は、決して楽なものではありませんでした。人手不足や資金不足等、多くの課題があり、ネットワーカーでもある会長の川上さんは、「平成16年～17年にかけては、太鼓の打ち手が集まらず、5、6人になり、特に大変な時期でした。」と振り返ります。

現在は、保存会の会員を瓜連地区以外からも募集し、大人17名、子ども12名の会員で活動しています。

子ども達に継ぐ

瓜連小学校での「太鼓教室」は、2週間に一回、クラブ活動の時間に行われています。練習の様子を見学させてもらうと、とても和やかな雰囲気の中、生徒達が、積極的に太鼓を叩いていました。

生徒達は、「学校の授業の中でも楽しみにしていることの1つです。2週間に1回の練習では、少ないと思う。1週間に2回はやりたいです。」

「音が響いてとても気持ちがいい。難しいところもあるけど、出来たらすごく嬉しい。」と感想を話してくれました。

子ども達が、一生懸命楽しそうに太鼓を叩く姿を見ると、瓜連の伝統を守る未来の担い手が確実に育っていると実感しました。



うりづらおはやし保存会の皆さん

■ ふるさと自慢の推薦者
那珂市ネットワーカー連絡協議会
会長　白土繁子



地域活動

女性のパワーで地域を元気に！

「那珂つるしびなの会」

那珂市ネットワーカー連絡協議会

「那珂つるしびなの会」

例年2月から3月に開催される「那珂のひなまつり」では、市内各地の会場に雛人形やつるしびなが飾られます。愛くるしい姿で町を飾るつるしびなを制作しているのは、地域を活性化させようと意気込む女性たちです。

「NPO法人ひろがる和 那珂つるしびなの会」（鴨志田和枝会長）が運営するつるしびな講座は、9～12月の月2回、那珂市中央公民館他2会場で開かれ、受講生は100名を超えます。



「那珂つるしびなの会」鴨志田会長

つるしびなの制作



講座を訪れると、平成24年度の展示テーマ「祝い」にちなみ、鶴、亀、菜の花、巾着袋、さるぼぼ等のつるしびなを制作していました。

鶴や亀は長寿、巾着袋は、お金が貯まるようにという意味が込められ、さるぼぼは「災いが去る（猿）」という縁起物として知られています。

ひなまつりでの展示目標は、1500本です。

講師の加藤先生は、「受講生からいつも元気をもらっています。準備は、とても大変ですが、出来上がった作品を見せてもらうと疲れも消えてしまいます。」と嬉しそうに話します。

一番難しいのは、つるしびなの顔づくりで、「心が安定している時でないと、優しい顔は作れないんですよ。」と教えてくれました。

会長の鴨志田さんは、「中高年になると家の中に閉じこもりがちになりますが、講座に来ているうちに、自分の能力が発揮できる、作った作品を飾りたいと思うようになります。私たちは、その手助けをさせてもらっています。」と語ります。

那珂のひなまつり

平成24年度のひなまつりでは、市内9カ所につるしびなが展示されます。

展示会場の一つ、一の関ため池親水公園内にある「曲がり屋」は、市内に残る最後の茅葺家屋を移築・復元したものです。

彩り豊かなつるしびなが、茅葺家屋の室内を飾る光景は、趣き深く、とても美しいものです。

■ ふるさと自慢の推薦者
那珂市ネットワーカー連絡協議会
会長　白土繁子

■「曲がり屋」
所在地：那珂市菅谷 4520 - 1

伝統・文化

現在のひたちなか海浜鉄道湊線の創設者「大谷 新介氏」



ひたちなか市ネットワーカー連絡協議会

ひたちなか市民が愛する「ひたちなか海浜鉄道湊線」



ひたちなか海浜鉄道湊線は、JR勝田駅から阿字ヶ浦駅までの約14・3㎞を結ぶローカル線で、のどかな田園風景の中を走ります。ひたちなか市民の通勤・通学の足であるほか、観光客や鉄道ファンも多く利用します。人々に愛されるこの湊線の創設者が、大谷新介氏なのです。

鉄道敷設までの道のり

1844年生まれの大谷新介氏は、旧那珂郡勝田村(現在のひたちなか市)の初代助役、二代目村長を務めました。

村長だった1897年に、水戸―平(現在のいわき駅)間の常磐線が開通しましたが、勝田に駅は設けられず、その恩恵は受けられませんでした。

村民の期待を背負った新介氏は、地元の経済的発展を目指して、勝田村武田に停車場を設置することを日本鉄道に請願し、日本鉄道は、勝田から那珂湊・平磯方面への軽便鉄道敷設を条件に、これを承諾したといいます。

そこで、新介氏は、地元に働きかけて資金を集め、武田―平磯間を走る「武平鉄道」を設立したのです。

その後、1907年に、武平鉄道は湊鉄道に改組され、1913年に、勝田―那珂湊間が開通しました。

湊鉄道創設以来、6年もの年月を要してのことでした。



石碑建立当時の記念写真

新介氏の功績を伝える



大谷新介氏の玄孫にあたる大谷憲治さんは、「新介は、頼まれたら必ずやり遂げる強い精神力があったのだと思います。それに、山高帽を被るほどのハイカラさんでもありました。」と、写真を見せながら、その人柄について話してくれました。

勝田駅東口の一角には、1925年に建てられた新介氏の功績を称えた顕彰碑があります。

ネットワーカーの皆さんは、「地元にこんな偉大な方がいたのに、知らなかったのは反省すべきことです。新介さんがいなかったら、今の勝田はなかったかもしれません。その功績を、後世に伝えていきたいです。」と話します。

■ ふるさと自慢の推薦者
ひたちなか市ネットワーカー連絡協議会
会長　桐原悦子

祭り・催事

華やかな風流物が練り歩く

「天満宮御祭礼」

～みなと八朔まつり～





浜降りの祭り

毎年8月上旬、那珂湊の天満宮で、「天満宮御祭礼」が4日間に渡って行われます。「みなと八朔祭り」という名前で親しまれるこの祭りは、天満宮の祭神である菅原道真公が海から出現したという伝説に基づき、神輿を担いで町々を練り歩いた後、その神輿を海に担ぎ入れる浜降りの儀式で有名です。

祭りは、那珂湊地区にある町のうち、「年番町」という、その年の世話役となった町が、全てを取り仕切ります。



華やかな風流物



祭りは、年番町のお宮参りから始まり、その後、神輿とともに、各町の風流物と呼ばれる屋台が街を練り歩きます。これが、祭りの見どころの一つである風流物の巡行「町渡し」です。

露払いとなる「六丁目の獅子」は、「ささら」とも呼ばれる操り人形のようになった三匹の獅子で、お囃子に合わせて一体ずつ勇壮に踊ります。

「元町のみろく」は、白、青、赤の三体の神様の人形で、屋台の中で、滑稽に演じられます。この獅子とみろくは、どちらも国選択無形民俗文化財に指定されています。

この他、芸者が乗り、お囃子を演奏する屋台等もあり、那珂湊の町々を、何台もの華やかな屋台が練り歩くその光景に、集まった人々の目は、釘付けになります。

祭りの素晴らしさを伝えたい

約300年の歴史を誇るこの祭りについて、天満宮の宮司、神永さんは、「昔は、江戸の方からも見物客が来て、泊まる場所がなく野宿をしたという記録があるくらい豪華で盛大なものでした。」と教えてくれました。

ネットワーカーの皆さんは、「その昔は、盛大だったこの祭りも、以前程の活気はなくなってしまいました。それでも、これだけ豪華なお祭りなので、那珂湊地区に限らず、もっと知名度を上げ、沢山の人に来てもらいたいと思っています。ネットワーカーとしても、PR、呼びかけを行って宣伝していきたいです。」と抱負を語ってくれました。

■ ふるさと自慢の推薦者
ひたちなか市ネットワーカー連絡協議会
会長　桐原悦子

■「那珂湊天満宮」
所在地：ひたちなか市湊中央1-2-1

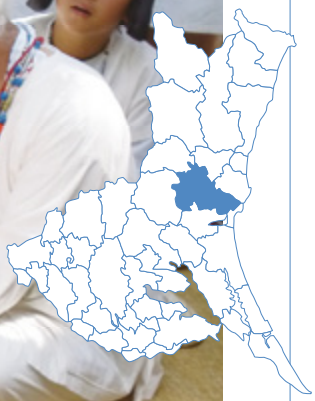


祭り・催事

古代ロマンに想いを馳せて

「堀原火の国まつり」

水戸市ネットワーカー連絡協議会



水戸市

祭り開催のきっかけ



堀原火の国まつりは、平成2年から始まった水戸市堀原地区の祭りで、毎年8月の最終日曜日に開催されています。

堀原小学校、堀原市民センターが設立されたのをきっかけに、地域の絆を深め、子ども達に思い出を残してあげたいという思いから、子ども会や地域住民が力を合わせ、この祭りを始めました。

当初、盆踊りのような内容を考えていたところ、堀原市民センターで開催した生涯学習講座で、地元の民俗学者藤田稔先生から堀原の歴史や生涯学習のまちづくりについて学んだことで、「堀原火の国まつり」というアイデアが生まれました。

開催に至るまでの準備期間は、わずか半年でした。

なぜ火の国まつり？

古代、水戸地方を開発した最初の指導者が、九州・火の国と深い関係のある建借間命（たけかしまのみこと）といわれていることにちなみ、火の国まつりを開催することになりました。

水戸市飯富町の大井神社には、建借間命が祀られ、堀原地区の隣、袴塚にある愛宕山古墳は、建借間命の墓ではないかといい伝えられてきました。

祭りでは、愛宕山古墳での火おこし式等の古代をしのぶイベントのほか、堀原小学校の火の国太鼓クラブや金管バンドの演奏等も行われます。



住民手作りの祭り



古代装束は、辞書などで調べて研究し、自分達で衣装を作りました。

ポスターは、堀原小学校の生徒によるものです。

火おこしの方法も長年工夫を重ねてきました。

地元住民が、自分達の事は自分達でやるというモットーのもとに一から作り上げたのが「堀原火の国まつり」なのです。

堀原火の国まつり実行委員会顧問の桑名さん、委員長の高畑さんは、「子ども達が親になった時に、自分達の子どもに語れる思い出があれば励みになるのではないか。そのようなものを私達が残すべきではないかと思っています。」

「堀原火の国まつりは、世代を超えたメッセージなのです。」と語ってくれました。

■ ふるさと自慢の推薦者
水戸市ネットワーカー連絡協議会
会長　郡司敏枝



おすすめスポット

史跡を生かして整備した地域のオアシス

「水戸市大串貝塚ふれあい公園」

水戸市ネットワーカー連絡協議会

史跡を生かした村おこし

水戸市塩崎町にある「水戸市大串貝塚ふれあい公園」（水戸市埋蔵文化財センター）は、常陸国風土記に登場する国指定史跡「大串貝塚」とダイダラボウ伝説を基に整備された公園です。

桜の季節には、80～90本の桜の木が咲き誇り、敷地内に段差が少ないことも手伝って、家族連れからお年寄りまで、毎年多くの花見客で賑わいます。

公園は、旧常澄村時代、史跡を生かして村おこしをしようと、遊びながらも歴史を学べる施設を目指して造られました。

常陸国風土記に残されたわずかな記述を基に始まった村おこしでした。



ダイダラボウ像

ダイダラボウ伝説

ダイダラボウ伝説について、常陸国風土記には次のような意味の記述があります。

「大昔、巨人がいた。丘の上にいながら手をのばして海辺の蛤を掘り出して取った。その巨人の足跡は長さ約72メートル。」

これに基づき、公園のシンボルである巨大なダイダラボウ像の手先は、海の方に位置しています。

ダイダラボウ像の高さは約15mで、展望台の階段を上ると、ダイダラボウ像の手の平からの風景が見渡せます。



ダイダラボウの足跡池

この公園をふるさと自慢に推薦したネットワーカーの皆さんは、「旧常澄村の人達が、公園やダイダラボウを見て、ふるさとの祖先を見直す機会を持てることが良いですね。」と語ってくれました。

歴史を体感！

取材の日、大串貝塚ふれあい公園の元所長で、現在、ネットワーカーでもある飛田さんに公園内を案内していただきました。

埋蔵文化財センターの1階には、大串貝塚の出土遺物の展示や、縄文人の暮らしを紹介した「縄文くらしの四季館」があります。

センターの外には、ダイダラボウの足跡とされる「巨人足跡池」、縄文時代から古墳時代の住居を再現した「縄文広場」、「大串貝塚」等があり、子どもから大人まで、気軽に歴史に興味を持てる施設となっています。

■ ふるさと自慢の推薦者
水戸市ネットワーカー連絡協議会
会長　郡司敏枝

■「水戸市大串貝塚ふれあい公園」（水戸市埋蔵文化財センター）
所在地：水戸市塩崎町 1064 - 1
開館時間：午前９時～午後４時 15 分
休館日：月曜日（但し月曜日が祝日と重なった場合は翌日）、年末年始（12/29 ～ 1/3）
公園入園・施設入館は無料



祭り・催事

皆で縄文人に変身!?

「風土記の丘ふるさとまつり」

～ダイダラボウまつり～

水戸市ネットワーカー連絡協議会

地域のイメージアップを目指して

巨大なダイダラボウ像が目印の大串貝塚ふれあい公園で、毎年11月の第2日曜日に開催されているのが、「風土記の丘ふるさとまつり」です。別名「ダイダラボウまつり」として親しまれ、地域を盛り上げています。

この祭りは、平成3年、大串貝塚ふれあい公園が完成したのを機に、国指定史跡「大串貝塚」を生かした地域のイメージアップを目的として始まりました。

祭りの運営は、行政、教育委員会、大串貝塚塾、出店団体等で組織された実行委員会が行っています。

実行委員会のメンバーである大串貝塚塾とは、水戸市埋蔵文化財センターで開かれている生涯学習講座で、歴史講座や史跡・博物館巡り等を通して知識の幅を拡げた受講生達が、祭り成功のために力を合わせて頑張っています。

ネットワーカーの飛田さん、宮本さんも実行委員会のメンバーとして活躍中です。



縄文人に変身！

祭りの内容は、とてもユニークで、特設ステージでは「縄文人でショー」が行われます。ショーの参加者は、約50名で、市内の小中学生、大串貝塚塾のメンバーらが古代人に扮して行進します。

衣装からアクセサリーまで、全て手作りで、古代にタイムスリップしたかのようなその光景は、大勢の観客を楽しませてくれます。

平成24年の祭りでは、縄文人ファッションに身を包んだ「水戸ご当地アイドル（仮）」が登場し、会場を一層盛り上げました。

ネットワーカーの皆さんは、「縄文人に扮するために、広告紙でアクセサリーを作る等、みんな競って楽しんでいます。」と語ります。

そのほか、茨城県指定無形民俗文化財である「大野みろくばやし」と「大串ささらばやし」の公演も行われます。

イベント広場では、勾玉作り体験教室、金魚すくい、竹細工コーナー等約20店が出展し、フリーマーケットも開催されます。

是非一度、ダイダラボウが見守る中行われる縄文人ファッションショーを見に、祭りにお越しください！



■ ふるさと自慢の推薦者
水戸市ネットワーカー連絡協議会
会長　郡司敏枝

祭り・催事

天狗に向かってばかやろう！愛宕神社の奇祭

「悪態まつり」





大好きかさまネットワーカー連絡協議会

悪態まつりとは

12月、笠間市の愛宕山山頂にある愛宕神社主催で、「悪態まつり」が開催されます。

愛宕山には、昔、天狗たちが住んだという伝説があり、愛宕神社の裏にある飯綱神社には、十三天狗を祀った祠があります。

祭りでは、13人の氏子総代達が、白装束に烏帽子を身に着けて天狗に扮し、無言で祠に供物を供えながら、愛宕山の麓から山頂まで、約４㎞の道のりを歩きます。

この間、参拝客は、山を登る天狗に悪態をつき、御利益があるといわれる供物を奪い合います。



十三天狗の祠

皆で「ばかやろう！」



「ばかやろう！」「しっかり歩け！」といった罵声が響く中、天狗たちは、決して言い返すこともなく、無言の業に徹します。

中には、「格好いいぞー！」「ありがとう！」等の罵声とも言い難いかけ声も響きます。

名指しでなければどんな悪口を言っても許されるというだけあって、参拝客は、日頃の憂さを晴らすように、思い切り叫びます。

また、祠での供物の奪い合いは、想像以上の激しさで、幸せの御利益をつかみとろうと、皆必死です。

天狗たちは山頂まで辿り着くと、愛宕神社の境内で、大勢の参拝客に向かって餅や菓子をばらまきます。

そして最後には、合図を受けて、参拝客皆で「ばかやろう！」と叫びます。

叫んだ後には、不思議と拍手が沸き起こり、その言葉の意味とは裏腹に、すがすがしい気持ちと、一体感さえ生まれた気がしました。

祭りには、県外からもその噂を聞きつけ、沢山の人が訪れます。

まだ体験したことのない方は、是非一緒に「ばかやろう」と叫んでみませんか。



祠で供物を奪い合う参加者

■ ふるさと自慢の推薦者
大好きかさまネットワーカー連絡協議会
会長　綿貫亮

■「愛宕神社」
所在地：笠間市泉 102



自慢の一品

いばらきが誇るご当地グルメ

「笠間のいなり寿司」



大好きかさまネットワーカー連絡協議会

種類豊富ないなり寿司

笠間市では、日本三大稲荷のひとつ「笠間稲荷神社」にちなんで、いなり寿司によるまちおこしを行っています。

活動の主体は、「笠間のいなり寿司いな吉会」で、市内の飲食店やボランティアを中心に構成されています。

いなり寿司といえば、酢飯だけ入ったものが思い浮かびますが、笠間のいなり寿司は、酢飯の代わりにそばを使ったり、茨城県ならではの食材をあしらったりと、バラエティ豊かな変わり種のお寿司が特徴で、いな吉会加盟店で食べることができます。

そばを詰め込んだものは「そば稲荷」、そのほか、クルミ、舞茸、栗が入ったもの等、季節と店舗ごとに違った味を楽しめます。

取材では、いな吉会の会長沼田さんが営む「柏屋」を訪れました。そば稲荷を試食すると、油揚げとそばの組合せが絶妙で、とても上品な味わいです。

ネットワーカーの益子さんも、「そばがきれいに並び、歯ごたえも良いですね。」と感想を話してくれました。



柏屋のご主人 沼田さん

茨城初、愛Bリーグ正会員に昇格

いな吉会は、平成22年には、B-1グランプリを主催する「B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（愛Bリーグ）」の準会員に承認され、平成24年には、正会員に昇格しました。

正会員への昇格は、茨城県初の快挙です。

平成24年10月には、福岡県北九州市で開催された「ご当地グルメの祭典！B-1グランプリin北九州」にも出展しました。

ネットワーカーの中野さんも、いな吉会応援団のメンバーとして、いなり寿司のパック詰め、販売等、あらゆることを手伝っています。

中野さんは、「笠間のいなり寿司は、一口サイズで、摘まみやすく、食べやすいのが良いところです。」とおすすめポイントを教えてくれました。



■ ふるさと自慢の推薦者
大好きかさまネットワーカー連絡協議会
会長　綿貫亮

■「柏屋」
所在地：笠間市笠間1273
TEL：0296-72-0139
営業時間：午前9時30分～午後5時
定休日：無休

祭り・催事

町一丸となって守る涸沼の自然

「茨城町涸沼環境フェスティバル」



茨城町ネットワーカー等連絡協議会

いばらきの宝「涸沼」



茨城県中部に位置する涸沼は、茨城町、大洗町、鉾田市にまたがる汽水湖で、ヤマトシジミの産地として知られるほか、絶滅危惧種であるヒヌマイトトンボの発見地としても有名です。その湖畔にある涸沼自然公園には、涸沼を一望できる「太陽の広場」、小さな渓流が流れる「せせらぎ広場」、子ども向け遊具が備えられた「わいわい広場」等があり、豊かな自然を身近に感じながら、ハイキング、キャンプ、バーベキュー等色々な遊びが楽しめます。茨城町ネットワーカー等連絡協議会の照沼会長は、涸沼の環境保全の大切さを発信するために開催されている「茨城町涸沼環境フェスティバル」を、ふるさと自慢として推薦してくれました。

世代を超えて考える涸沼の自然



「茨城町涸沼環境フェスティバル」は、涸沼自然公園を会場に、平成22年から隔年で開催されています。

フェスティバルでは、自然環境に関する展示コーナー、しじみ料理等の飲食コーナーがあるほか、フナの稚魚・しじみの稚貝の放流体験も行われました。

そして、照沼会長が、このフェスティバルの見どころの一つだと教えてくれたのは、地元小学生による涸沼浄化推進の活動発表です。

自分たちの言葉で堂々と発表する小学生を見ると、自ら考え、研究することによって、涸沼に対する愛着がより一層強くなっていくのだと気づかされます。

フェスティバルの実行委員でもある照沼会長は、「町民こぞってフェスティバルを盛り上げようと頑張っており、茨城町ネットワーカー等連絡協議会としても賛同して参加しています。

日頃の環境美化活動やひぬまクリーン作戦を通じて生まれたネットワークを活かして、町内外にPRし、これからも一緒にフェスティバルを作り上げていきたい。」と、抱負を語ってくれました。



■ ふるさと自慢の推薦者
茨城町ネットワーカー等連絡協議会
会長　照沼一美

■「涸沼自然公園」
所在地：東茨城郡茨城町中石崎2263
開園時間：午前９時～午後５時



おすすめスポット

地元住民が守る

「御嶽山・雨引山ハイキングコース」

桜川市ネットワーカー協議会

ハイキングコースの特徴

筑波連山北部に含まれる御嶽山・雨引山の標高は、御嶽山が231m、雨引山が409mで、そのハイキングコースは、関東ふれあいの道にもなっていますが、一般にはあまり知られていません。

このコースのスタート地点は、JR水戸線岩瀬駅から歩いて10分ほどの所にあり、山頂までは、約1時間30分の道のりです。電車で来て、気軽にハイキングを楽しむのには絶好のコースです。

最大の魅力は、このコースが地元のボランティアの皆さんの手で守られているということです。歩きながら、草を刈ったり、花を保護したりする人が何人もいるのです。

取材の日、そのうちの1人であるボランティアの寺門さんが、山頂までの道のりを案内してくださいました。

10年間、コースを手入れしながら、一日も欠かさずに歩き続けている寺門さんは、「最初は休憩を入れながら歩いていたけれど、今はノンストップ。病気知らずですよ。」と話します。

ボランティアが発見した山ツツジ



ハイキングコースの見どころの一つは、ゴールデンウィークの頃に山一面を飾る山ツツジです。

その山ツツジを見つけたのも地元の皆さんで、藪に覆われていた所を、枝払いをしたり、下草を刈ったりして綺麗にしたことにより、山ツツジの存在が明らかになったのです。

それからというもの、誰に言われるわけでもなく、毎日、地元の方々が手入れを続けています。

初夏の山ツツジ以外にも、春は山桜と新緑、秋は紅葉、空気が澄む冬には、山頂から富士山やスカイツリーも一望できるそうで、四季を通して楽しめます。

自分にできることを続ける

山道を登ると、寺門さん同様、作業道具を片手に歩く太田さんにもお会いしました。

太田さんは、ボランティアの中でも最高齢者の85歳です。

地元の方々が、毎日欠かさず山の手入れをする姿を見て、まちづくりで大切なことは、自分の出来ることで地域に貢献し、継続することだと気づかされました。

地元の皆さんの愛情で、ゴミが一つもない、御嶽山・雨引山ハイキングコースを、是非歩いてみてください。



山頂で記念撮影

■ ふるさと自慢の推薦者
桜川市ネットワーカー協議会
会長　井上民男



おすすめスポット

筑波山西麓「北限のみかん狩り」

桜川市ネットワーカー協議会

みかん栽培の北限地

皆さん、筑波山でみかん狩りができることを知っていますか。

みかんの産地といえば、和歌山県や愛媛県が有名ですが、茨城県でもみかんを栽培していることは、知らない人も多いかもしれません。

筑波山の西側の麓に位置する桜川市酒寄地区には、標高150m付近を中心に、観光みかん園が広がり、毎年10月中旬～12月下旬にかけて、みかん狩りを楽しむことができます。



筑波山は、みかん栽培の北限地であり、その秘密は、斜面温暖帯の存在です。

山の中腹が山の麓よりも気温が高くなるこの斜面温暖帯という気候条件を生かして、この地域では、古くからみかん栽培が行われてきたのです。



在来種の福来（ふくれ）みかん

酒寄地区で栽培されているのは、温州みかんと福来みかんです。

この地域で育てられる温州みかんは、味が濃いのが特徴です。

そして、在来種の「福来みかん」は、直径2～3㎝の小さなみかんで、江戸時代から栽培されているといいます。

普通のみかんより少し酸味が強いのが特徴で、地元で作られる七味唐辛子には、このみかんの皮を乾燥させて粉状にしたものが入っており、とても良い香りがします。

取材で訪れたのは、酒寄地区の「はぶつみかん園」です。

山の斜面にみかんの木が広がる中、はさみとかごを持って、黄色く色づいたみかんを探します。

「ふくれみかん」とは、「福が来ると書くんだよ」と教わると、その小さなみかんが幸せを運んでくれそうで、みかん狩りが、より一層、楽しいものとなりました。



■ ふるさと自慢の推薦者
桜川市ネットワーカー協議会
会長　井上民男

■「はぶつみかん園」
所在地：桜川市真壁町酒寄1731
TEL：0296 - 55 - 4286

伝統・文化

「小栗判官伝説発祥の地」





小栗判官伝説とは

筑西市の旧協和町地域に、小栗という地区があります。その昔、この地域を治めていた常陸の国・小栗一族の十五代目城主 小栗助重は、「小栗判官伝説」のモデルとして知られています。

1455年、小栗城は古河公方足利成氏に攻められ落城し、小栗の歴史は途絶えますが、その悲話は、説話の格好の題材となりました。助重とその父、満重の伝説は、歴史書「鎌倉大草子」に記され、その後、寺社の布教活動とともに各地に伝わり、人形浄瑠璃や芝居、歌舞伎の世界に広まっていく中で、脚色され、よりインパクトの強い物語が作られました。

ゆかりの史跡

旧協和町には、現在も、小栗城跡や、一向寺にある小栗判官の墓等、ゆかりの史跡が数多く残っています。

小栗城は、1155年に築かれ、落城まで約300年間存在しました。

現在、城山は、歴史的遺産として保護するとともに、子ども達の野外活動の場や地域の憩いの場となるよう、整備が進められています。

城山の麓にある小栗内外大神宮は、国指定重要文化財で、内宮本殿・外宮本殿・御遷殿の三棟からなります。

ここに伝わる太々神楽は、県指定無形民俗文化財で、毎年4月と11月の例大祭で奉納されています。



小栗内外大神宮 御遷殿

伝説発祥の地として知名度アップを！

筑西市では、小栗判官伝説でまちおこしをしようと、平成元年から、「小栗判官まつり」を開催しています。

筑西市茂田には、「小栗判官研究室」があり、小栗判官伝説に関する資料を閲覧することができます。

ネットワーカーの皆さんは、「ネットワーカーも小栗判官まつりに参加して資料の展示をしています。伝説発祥の地として、知名度アップに協力していきたいです。」と意気込みを語ってくれました。



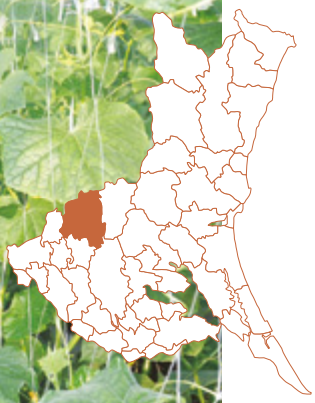
小栗太々神楽

■ ふるさと自慢の推薦者
筑西市ネットワーカー協議会
会長　関根静子



自慢の一品

「筑西市のおいしい農産物」



農産物の宝庫

筑波山の西側に位置し、豊かな自然に恵まれた筑西市は、おいしい農産物の宝庫です。県内でも有数の米処として知られるほか、常陸秋そば、桃太郎トマト、関城地区の梨、協和地区の紅こだますいか等が有名です。

12月、ネットワーカーの大竹さんの案内で、出荷が始まったばかりのきゅうりと、クリスマスに向けて出荷に追われるいちごのハウスを訪ねました。



クリスマス用のいちごを収穫する小菅さん

筑西市のおいしいきゅうり



ビニールハウスに一歩足を踏み入れると緑の風景が広がります。谷島さんは、30年、きゅうりの生産をしています。

連作をすると土が疲れて収穫量が落ちるので、堆肥を入れます。

温度管理にも気を遣い、寒い季節には、暖房機を約15時間稼働し、夜間はハウス内を12.5～13度に保ちます。

谷島さんは、「購入苗を使用する農家もありますが、うちでは苗も自家製です。家族労働なので全て手作業で、箱詰めも自分たちでするんですよ。」と話してくれました。

瑞々しく歯ごたえが自慢のきゅうりは、谷島さん一家の手間と愛情の賜物です。

筑西市のおいしいいちご



筑西市は、県内有数のいちごの生産量を誇り、平成13年に茨城県銘柄推進産地に指定されています。

小菅さんは、いちごを作って40年以上になります。

「一般的に40年というと聞こえはベテランのようですが、いちごは天候に左右されるので、毎年一年生です。」と語ります。

いちご作りは、苗を育てる期間の1年と収穫期間の半年で、実に1年6か月の月日を費やします。

こうして育てられたいちごを、ネットワーカーの皆さんと一緒に試食させていただきました。

筑波山を背に、摘みたてのいちごを頬張ると、口いっぱいに、たっぷりの甘さと適度な酸味が広がりました。

■ ふるさと自慢の推薦者
筑西市ネットワーカー協議会
会長　関根静子



祭り・催事

大宝八幡宮（だいほうはちまんぐう）の火祭り「タバンカ祭り」



下妻市ネットワーカー等連絡協議会

全国でも珍しい火祭り

毎年9月12日と14日に、下妻市にある大宝八幡宮で、「タバンカ祭り」が開催されます。この祭りは、白装束の青年氏子たちが、火を振り回して、参詣の人々を追いかけるという大変ユニークなものです。その起源は、1370年、大宝寺別当坊の賢了院でボヤが出た際に、剥がした畳と鍋ぶたを使って火を消し止めたという故事を戯曲化したのが始まりだといわれています。



境内を逃げ回る！

夜7時、太鼓の音が、祭り開始の合図です。

祝詞奏上等の後、畳の上に乗せた鍋ぶたと御供え物を盛ったかわらけ（素焼きの平皿）を、白装束の氏子が、畳ごと、拝殿前へと放り投げます。

このとき砕けたかわらけの破片を拾うと、病気をしないといわれることから、参詣の人々は、我先にと競って拾います。

次に、拝殿前の大松明に火がつけられると、その火を囲んで、氏子たちが、畳や鍋ぶたを、力一杯、石畳に叩きつけます。

この時の「バタン、バタン」という音が、「タバンカ祭り」の名前の由来です。

そして、御神火をいただいた松明を持った氏子たちは、松明を振り回しながら境内を駆け回り、時に、参詣人を追いかけもします。

火の粉を浴びると、火の災いを免れるともいわれており、火傷に気をつけながら、火の粉を浴びる人もいます。

集まった地元の子ども達や、この日、祭りをレポートするために訪れていた下妻市のご当地アイドル「しもん chu」のメンバーも、歓声を上げながら全速力で逃げ回ります。

闇夜を動き回るいくつもの炎と、覆面をした白装束の氏子たちの姿を見ると、タバンカ祭りが奇祭と呼ばれる由縁が理解できたような気がしました。

ネットワーカーの皆さんは、「実は、地元の人にもあまり知られていないんです。歴史があり、貴重な体験が出来るお祭りなので、積極的に紹介していきたいです。」と語ってくれました。



■ ふるさと自慢の推薦者
下妻市ネットワーカー等連絡協議会
会長　軽部守彦

■「大宝八幡宮」
所在地：下妻市大宝 667



自慢の一品

下妻市のご当地スイーツ「ポピー大福」



下妻市ネットワーカー等連絡協議会

子どもや女性に大人気！

下妻市大園木にある「やすらぎの里しもつま農産物直売所」に、今、隠れた名品となっているスイーツがあります。それが、「ポピー大福」です。中身は、紫いもの餡と生クリームで、その優しい甘さから、子どもや女性に大変人気です。

誕生秘話

ポピー大福誕生の裏には、下妻市の市民団体「花と一万人の会」の活動があります。平成3年に設立された「花と一万人の会」は、ゴミの不法投棄で荒廃していた鬼怒川の河川敷を、昔のきれいな姿に戻したいとの思いから、「鬼怒フラワーライン」として整備しました。

生まれ変わった鬼怒フラワーラインには、毎年5月、150万本ものポピーが咲き誇ります。花と一万人の会では、ポピーの花が咲き終わる6月、河川敷に紫いもの苗を植え、10月下旬には、ポピーの種まきといも掘りを行います。

こうして育てられた紫いもを使って、何かできないかと考えた結果完成したのが、「ポピー大福」なのです。

大福を切ると、その切り口は、ポピーをイメージした形になっています。

ネットワーカーであり、花と一万人の会会長でもある飯島さんは、「開発には、3年かかりました。一日にどれだけ試食したか、分からないくらいです。」と、苦労話を聞かせてくれました。



ポピー大福

地域の人々と一緒に



花と一万人の会の活動は、地域の人々の協力によって成り立っています。

10月のポピーの種まきでは、地元の小学生や住民の皆さんに手伝ってもらっています。

こうした活動が、地域の交流や、河川敷の環境美化の啓発につながっているのです。

ポピー大福は、今や下妻市を代表するご当地スイーツと言っても過言ではありません。

飯島会長は、「ポピー大福を食べた人は、必ずと言っていいほど、リピーターになりますよ。」と、その味に、自信たっぷりです。

■ ふるさと自慢の推薦者
下妻市ネットワーカー等連絡協議会
会長　軽部守彦

■「やすらぎの里しもつま農産物直売所」
所在地：下妻市大園木 251 - 1
営業時間：午前9時～午後 6 時30分（4月～10月）
午前9時～午後 6 時（11月～3月）
定休日：毎月第 1・第 3 水曜日



おすすめスポット

自慢の天然温泉施設

「憩遊館（けいゆうかん） やちよ乃湯」

八千代町ネットワーカー等連絡協議会

効能豊かな天然温泉

八千代グリーンビレッジの中にある日帰り温泉施設「憩遊館」では、天然温泉「やちよ乃湯」が楽しめます。

地下1500mから湧き出るこの温泉は、神経痛や関節痛、冷え性や疲労回復等の様々な治療効能があります。

4種の内湯の他、露天風呂やサウナもあり、この温泉を目当てに、県内のみならず県外からも沢山の人が訪れます。

また、平成24年8月には、この効能豊かな温泉を無料で体験できる足湯も完成し、訪れた人々が、気軽におしゃべりを交わす憩いの場となっています。



ご当地グルメ「白菜メンチカツ」



憩遊館のレストランでは、八千代町産白菜を使ったご当地グルメ「白菜メンチカツ」が食べられます。

具材に白菜が入ったヘルシーかつジューシーな味わいのこのメンチカツは、八千代町の特産品である「白菜」を幅広くPRしようと開発されたもので、近い将来、大ブレイクを予感させる逸品です。

ネットワーカーの皆さんと試食をすると、「普通のメンチカツはパサパサ感があるけれど、これは、白菜のおかげで、しっとり感が出てますね。ソースをかけなくても十分美味しいです。」と感想を話してくれました。

八千代グリーンビレッジ

八千代グリーンビレッジには、やちよ乃湯やレストランの他にも、地元の新鮮野菜が並ぶ直売所、グラウンドゴルフ場、バーベキュー場、コテージ、キャンプ場、市民農園等があり、若者からお年寄りまで年齢を問わず楽しめる複合施設となっています。

温泉で身体を癒し、新鮮な野菜を買って、白菜メンチカツを味わう。

施設の楽しみ方は無限大です。



八千代の新鮮野菜が並ぶ直売所

■ ふるさと自慢の推薦者
八千代町ネットワーカー等連絡協議会
会長　大久保英男

■ 八千代グリーンビレッジ内「憩遊館」
所在地：結城郡八千代町大字松本592
営業時間：午前10時～午後9時（受付は午後8時30分まで）
休館日：毎月第2・4水曜日（祝日の場合は翌日）



自慢の一品

白菜生産量日本一

「八千代町の白菜キムチ鍋」

八千代町ネットワーカー等連絡協議会

白菜生産量日本一

寒い季節と言えば、鍋が恋しい季節。
鍋には白菜が欠かせません。
八千代町は、生産量全国一を誇る白菜の産地です。
昭和41年に白菜の指定産地となって以来、生産量を拡大してきました。
八千代町の秋冬白菜は、霜に当たるために繊維が柔らかく、甘みが多いのが特徴です。

まちグル味の白菜キムチ鍋

八千代町では、白菜の消費拡大と町のイメージアップを目的に、町、JA常総ひかり、町商工会が中心となり、町ぐるみで白菜キムチ鍋プロジェクトを始めました。
地元の人はもちろん、八千代町を訪れた人にも気軽に白菜を味わってもらおうと、白菜キムチ鍋をメニュー化してくれるプロジェクト加盟店を募り、現在、町内の19店舗が参加しています。



白菜のキャラクター「八菜丸」（はなまる）のイラストが入ったのぼり旗が、加盟店の目印です。

店ごとにオリジナルの味！

白菜キムチ鍋は、八千代町産の白菜と茨城県産の豚肉を使用することを条件に、その他の具材や味付けは、各店舗のオリジナルです。
取材で訪れたのは、加盟店の「そば処 千力」です。
笑顔がとても素敵な店主の鈴木さんに、店自慢の「白菜キムチ鍋」と「白菜キムチ鍋うどん」の二品を紹介していただきました。
プロジェクトの話が出てからというもの、汁の旨味作りに試作を重ねました。
町役場担当者のリクエストにも応え、揚げ玉も加えました。
キムチの辛さと揚げ玉と卵のまろやかさが相まって、最後の一滴まで飲み干せるほどの美味しさです。
「初めての方には、お口に合うか緊張しますが、汁まで飲み干して頂くとホッとします。」と話してくれました。
加盟19店舗では、店ごとにそれぞれの味を楽しむことができます。
八千代町の白菜キムチ鍋を、是非ご賞味ください。



白菜キムチ鍋 600円

■ ふるさと自慢の推薦者
八千代町ネットワーカー等連絡協議会
会長　大久保英男

■「そば処　千力」
所在地：八千代町菅谷1052
TEL：0296 - 49 - 2793
営業時間：午前11時～午後9時
定休日：木曜日



祭り・催事

「うしく三大まつりへいらっしゃい!!」

牛久市ネットワーカー連絡協議会

牛久市ネットワーカー連絡協議会が、ふるさと自慢に推薦してくれたのは、牛久の街を盛り上げる三つの祭り、「うしく・鯉まつり」、「うしくかっぱ祭り」、「うしくWaiワイまつり」です。ネットワーカーも運営や手伝い等で参加するうしく三大まつりをご紹介します。

うしく・鯉まつり



子ども達の健全育成を願って始まったのが、「うしく・鯉まつり」です。

祭りは、毎年5月上旬に牛久市近隣公園で開催され、子どもの日にちなんで、約200匹の鯉のぼりが、会場上空を泳ぎます。

これらは、市内外から寄付で集まったもので、設置から昇降まで、人力で行っています。

祭りでは、竹馬やベーゴマといった昔ながらの遊び、うなぎやどじょうのつかみ取り等、子ども達が普段体験できないイベントが盛り沢山です。

うしくかっぱ祭り

毎年7月下旬の土日に、河童の街、牛久を象徴する市内最大規模の祭り、「うしくかっぱ祭り」が開催されます。

メインイベントは、何といっても、「河童ばやし踊りパレード」で、2日間で約1万人もの踊り手が参加し、歩行者天国となった花水木通りを、参加団体それぞれに工夫を凝らした衣装で練り歩きます。

牛久市民なら知らない人はいないと言われる河童ばやし踊りですが、一般の方の飛び入りも可能です。

皆さんも、是非パレードに参加してみてください！

うしくWaiワイまつり



「うしくWaiワイまつり」は、地元の商業や地産池消の食べ物を紹介し、地域の交流を深めようと、毎年11月3日に開催されます。

うしくブランドの農産物、うしく河童米や、牛久河童大根等の販売、植木市、いい友市（フリーマーケット）等が行われ、毎年約3万人の人出があり、市外からも沢山の人が訪れます。

そして、来場者が楽しみにしているイベントの一つが、海外旅行や自転車、食事券等の豪華賞品が当たる大抽選会です。

参加券付きのパンフレットを持って、是非、会場まで足をお運びください！

■ ふるさと自慢の推薦者
牛久市ネットワーカー連絡協議会
会長　村武修司

地域活動

高齢者が集う地域のサロン

「水曜日だぜ～ 全員集合！」



守谷市ネットワーカー連絡協議会

「サロン イオンタウン」



毎週水曜日、イオンタウン守谷内のコミュニティホールを会場に、「サロン イオンタウン」が開かれます。

このサロンは、守谷市地域支援事業「出前サロン」の一つで、高齢者が地域でいきいきと楽しく過ごすことができるように、また、仲間づくり・居場所づくり・健康づくりを目的として開催されています。

参加者は、和気あいあいとヘルス体操や合唱、ゲーム等を楽しんでいます。

取材の日の午前中は、講師の先生の伴奏に合わせ、「北国の春」「北上夜曲」等の懐かしい歌謡曲を合唱していました。

午後からは、守谷市の歴史や風土を読んだ「守谷ふるさとかるた」で、かるた取りが行われました。

予想を上回る参加者数

サロンは、以前は別の場所で開かれていましたが、平成24年4月にイオンタウン守谷に移転しました。

移転先を探していたところ、イオンタウン守谷の担当者がコミュニティホールの使用を快諾してくれたのです。

結果、その通いやすい立地が功を奏し、参加者が以前よりも大幅に増え、毎回40～50名が参加するようになりました。

参加者の佐野さんは、「ヘルス体操が好きです。皆さんと一緒にやることが力になり、とても楽しいです。」と話します。

また、取材日にちょうど90歳の誕生日を迎えられた三島さんは、「ここに入って3～4年になりますが、一度も休んだことがありません。皆勤は私一人だけ。毎回、楽しみにしています。私のように、一人でも多くの方が、楽しく過ごすことが出来ればいいと思います。これからも沢山のことを学ばせていただきます。」と語ってくれました。

ボランティアの力

サロンの運営事務は、主にボランティアが担っています。

サロン移転の際、コミュニティホールを借用できるよう交渉したのは、ネットワーカーの石川さんです。

サロンのボランティアに関わるようになって約4年、他のボランティアスタッフとともに、企画や準備等を引き受けています。

ボランティアの皆さんは、「サロンの内容を決めるのは一苦労ですが、体操で体調が良くなったと聞くと嬉しい。そして何より色々な方と知り合えるのが楽しいです。」と笑顔で語ってくれました。



■ ふるさと自慢の推薦者
守谷市ネットワーカー連絡協議会
代表　安藤聖志

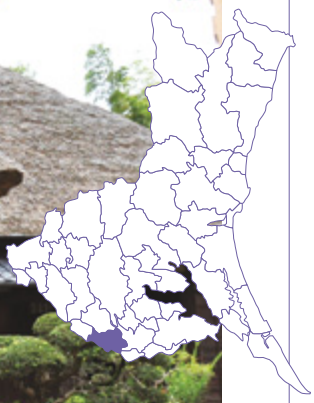
■「サロン イオンタウン」
場所：守谷市百合ヶ丘３-249-１
イオンタウン守谷２階コミュニティホール
時間：第一、第三水曜日　午前10時～午後２時30分
第二、第四水曜日　午前10時～午後12時30分

伝統・文化

水戸街道を行き来した大名の宿泊所

「旧取手宿本陣染野家住宅」





取手市ネットワーカー等連絡協議会

本陣とは

JR常磐線取手駅東口から徒歩約10分の場所に、「旧取手宿本陣染野家住宅」があります。重厚な茅葺き屋根のその建物は、まるで、江戸時代にタイムスリップしたかのように、趣深い雰囲気です。

本陣とは、江戸時代、参勤交代で江戸と国元の間を行き来した大名が、その道中に宿泊や休憩をした家のことです。

染野家は、代々、取手宿の名主で、1687年（貞享4年）に、水戸徳川家から本陣に指定されたといわれています。

旧取手宿本陣の見どころ

旧取手宿本陣は、水戸街道沿いに残る本陣の中で、一番古く、一番大きく、そして、唯一、一般に公開されている本陣です。

この建物は、1795年（寛政7年）に建てられたもので、明治の初期には、自宅兼郵便局として使用されていました。

建物の外側に面して馬蹄型の郵便窓口跡があり、郵便創業期の姿を現在に伝える大変貴重な文化財でもあります。

また、奥には、大名等の身分の高い武士が寝泊りした上段の間があり、その床は、他の部屋よりも約20㎝高く作られています。

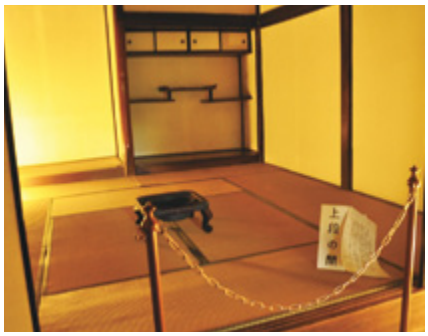


何度訪れても飽きない魅力

旧取手宿本陣染野家住宅は、昭和62年から約10年間の修理工事を経て、平成9年に一般公開されました。

「取手のふるさと自慢として、ぜひご紹介を！」と、元気に案内してくれたのは、ネットワーカーの皆さんです。

「本陣には、何度も足を運んでいますが、来る度に違う味わいがありますよ。毎回、目を引く所が変わってきます。そのくらい飽きが来ない場所なんです。」と、その魅力を熱く語ってくれました。



■ ふるさと自慢の推薦者
取手市ネットワーカー等連絡協議会
会長　彦坂三矢子

■「旧取手宿本陣染野家住宅」
所在地：取手市取手２-16-41
公開日：毎週金・土・日曜日（年末年始を除く）
公開時間：午前10時～午後４時まで（入場は午後３時30分まで）

伝統・文化

取手の飛び地をつなぐ渡し船

「小堀（おおほり）の渡し」





取手市ネットワーカー等連絡協議会

渡しの歴史



昔、取手付近の利根川は、南側に大きく蛇行していたため、この地域は、度々、氾濫による水害に見舞われていました。

そこで、明治の末期から、川を真っ直ぐにするための大改修工事が行われ、堤防も新たに築かれました。

ところが、この工事により、取手側に位置していた小堀地区は、川の反対側（千葉県我孫子市側）に分断されてしまいました。

生活に不便を感じた住民は、大正3年、自分たちの手で、飛び地をつなぐ渡し船を始めました。

これが、平成26年に運航百年を迎える「小堀の渡し」の始まりです。

平成11年には、循環バスが運行されることになり、生活の足としての役目は終わりましたが、現在も、市営の観光資源として運航を続けています。

利根川でリラクゼーション

小堀の渡し「とりで号」の乗船場所は、3ヶ所あり、一周約50分の船旅が楽しめます。

乗船料は、一運行経路に付き100円（往復200円）です。

利根川の水辺には、様々な動植物が生息しており、運が良ければ、カワウが魚を捕まえるところや、夏には、ハクレンというコイ科の魚がジャンプする光景に遭遇するかもしれません。

ミニツアーで小堀地区を散策

船頭歴15年の経験を持つ取手市役所の長塚さんの案内で、ネットワーカーの皆さんと一緒に、「小堀の渡しミニツアー」に参加しました。

ツアーは、事前申し込み制で、4月から10月までの月曜と火曜日、午前と午後に実施されており、乗船料は200円です。

取手緑地運動公園の駐車場前にある船着場から船に乗り、小堀地区に渡って、周辺を散策しますと、昔の利根川の流れが残る古利根沼や、かつて舟運で使用された高瀬舟の模型を見ることができます。

ネットワーカーの皆さんは、「取手に来て30年以上になるけれど、初めて乗りました。子どもが小さい頃に連れてくれば、きっと喜んだでしょう。」「この渡しの存在を知らなければ、このような体験はできません。やはり、私たちのPRが必要ですね。」と決意も新たに語ってくれました。

是非、渡し船に乗って、季節の風を肌で感じながら、目の前に広がる利根川の風景をお楽しみください。



■ ふるさと自慢の推薦者
取手市ネットワーカー等連絡協議会
会長　彦坂三矢子

■「小堀の渡し」
問い合わせ先：取手市役所 水とみどりの課
TEL：0297 - 74 - 2141

大好き いばらき

大好き いばらき 県民会議

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階
TEL：029(224)8120　FAX：029(233)0030

http://www.daisuki-ibaraki.jp

（平成25年8月発行）

※この冊子は、ネットワーカーの協力を得て、ふるさと自慢の関係者に取材した結果を基に作成しております。
尚、作成にあたっては、一部、写真や文献をご提供頂いております。